

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

夏の大会で、ぼくはベンチにいた。背番号は十八。一年生でただ一人、ベンチ入りできたのはうれしかったが出番がないことは、最初から分かっていた。ぼくの仕事は、スコアブックをつけることだった。スコアブックは、試合の全部を記号で書く帳面だ。誰が打って、どこに飛んで、何が起きたか。一球ごとに、小さなまますに書きこんでいく。三年生の先輩は「頼んだぞ」とだけ言って、グラウンドへ出ていった。

三回の裏、先輩がヒットを打った。ベンチが沸いた。ぼくは立ち上がりかけて、座り直した。書かなければならない。まずに、記号を書いた。ペンを持つ手が、少し震えていた。

試合は負けた。三年生は、その日で引退だった。片づけのあと、キャンプテンの先輩がぼくのところへ来て、スコアブックを開いた。

「これ、おれのヒットか。」
「はい。」

先輩はしばらく、そのますを見ていた。それから、「お前が書いてなかったなら、このヒットは残らなかったな」と言った。ぼくは何と答えていいか分からず、「はい」とだけ言った。

家に帰って、ぼくはスコアブックをもう一度開いた。汗でにじんだ記号が、ページのしからはしまで並んでいる。試合に出なかった自分が、この試合のどこにもいないような気がしていた。でも、違った。ますの一つ一つに、ぼくがいた。

ぼくは、来年の夏を思った。来年は、グラウンドに立ちたい。そのときは、誰かがこの帳面を持って、ベンチにいる。ぼくのヒットを、その誰かが書く。

スコアブックを閉じて、ぼくは机の引き出しの、いちばん上にしまった。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「ぼくは立ち上がりかけて、座り直した」とありますが、座り直した理由を本文中から十字以内で抜き出しなさい。

[illegible]

問二 「ペンを持つ手が、少し震えていた」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選
びなさい。

ア 記号の書き方を忘れて、あせっていたから。

イ 先輩のヒットに気持ちが高ぶり、その興奮がまだ残っていたから。

試合に出られないことがくやしくて、泣きそうだったから。

エベンチが寒くて、手がかじかんでいたから。

問三 先輩の言葉を聞く前、「ぼく」は自分をどのように感じていましたか。「どのような気がしていた」につながるように、本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

[illegible]

問四 「ますの一つ一つに、ばくがいた」とありますが、これはどういうことですか。先輩の言葉をふまえて、五十文字以内で説明しなさい。

[illegible]

問五 「机の引き出しの、いちばん上にしたった」という最後の一文から読み取れる「ばく」の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

アスコアブックをもう見たくないので、目につかない所にしまった。

イスコアブックを大切なものとして扱い、来年への気持ちと一緒にしまった。

ウ　引き出しがいっぱいで、上にしか入らなかった。

工 先輩に返すのを忘れないように、目立つ所に置いた。